

The Pawn Wine Co.

ザ・ポーン・ワイン・カンパニー



THE PAWN
Wine Co.

ADELAIDE HILLS

南オーストラリア州アデレード・ヒルズ
& ラングホーン・クリーク

設立：2002年

オーナー：トム・キーラン & レベッカ・ウィルソン
栽培醸造家：トム・キーラン



Adelaide Hills & Langhorne Creek, S.A.

Est.: 2002

Owner: Tom Keelan

& Rebecca Willson

Vigneron & Winemaker: Tom Keelan

URL: <https://thepawn.com.au/>

「ポーン」に込められた意味

アデレード・ヒルズとラングホーン・クリークで栽培家として大手ワイナリーにブドウを納入していたトム・キーランは、2002年、手塩にかけて育てたプティ・ヴェルドの買取りを拒否されたことから必要に迫られ「ザ・ポーン・ワイン・カンパニー」を設立する。名前の「ポーン」は、チェスの最下位の駒のこと。巨大企業が中心プレーヤーであるワイン業界では、小規模生産者は大手が繰り広げる市場戦略ゲームで翻弄され犠牲になるいわばポーンと同じ立場という意味をこめた命名だ。

一方で、ポーンだからこそできることもある。買収合併により巨大化が加速するワイン業界において、冷涼な畑の高品質ブドウから、丁寧な手作業で少量のアルチザンワインを造るというのはポーンならではの。19世紀後半にヨーロッパからの移住が始まった南オーストラリア州にあって、アデレード・ヒルズとラングホーン・クリークは昔ヨーロッパから持ち込まれた多様な品種も健在。トムは、通常はカベルネなどのメジャー品種のブレンドなどに使われることの多いそれらの品種を丁寧に育て、できるだけ自然に近い昔ながらの製法で醸造することにより、品種の個性を輝かせ、楽しく飲んで食事に合わせやすいワインにすることを目指している。

ワインとラベル

トムはアデレード大学で栽培学の学位を取得後、栽培家としてのキャリアを重ねる傍ら、醸造はピーター・レーマン・ワインズで主任醸造家だったアンドリュー・ウィーガンと彼の助手だったピーター・ショルツの下で学んだ。ザ・ポーンのワインは、ラングホーン・クリークで育てる自社畑のブドウと、長年のビジネス・パートナーで友人のデヴィット・ブロウが所有しトムが管理してきたアデレード・ヒルズの畑（52ha、標高350m）のブドウが主体で、醸造はトムの妻レベッカ・ウィルソンの実家であるラングホーン・クリークのワイナリーでトム自身が手掛ける。

ワインのラベルもトムの趣味でもあるチェスの駒にちなんでいる。チェスは各チーム16ピース、キングとクイーンが各1個、ルーク、ビショップ、ナイトは各2個、ポーンは8個の駒で競い合う。2021年リリースのヴィンテージより使われているラベルのビショップ、ルーク、ナイト、ポーンの図柄は、それぞれの品種やワインスタイルにあわせてトムが選んだもので、2004年からすべてのワインに使用してきたブランド・ロゴに代えて、よりワインの個性を強調したものの。

ラングホーン・クリーク Langhorne Creek

アデレードから車で1時間ほど南西にあるフルーリー半島付け根にあるラングホーン・クリーク。海洋性気候と豊かな土壌に恵まれた農業が盛んな地域で、ワイン栽培の歴史も古く、5世代にわたる栽培農家も存在する。標高10-50mの平地だが、マレー河が流れ込む淡水の大きな湖、アレクサンドリア湖が南氷洋の冷涼な風を吸い込むため、収穫期前の1月の平均気温が21℃と、ぶどうがゆっくり熟す条件が揃う。上質のシラズ、カベルネ・ソーヴィニヨン、マルベックに定評がある。19世紀後半からブドウ栽培が始まるが、良質赤ワインの産地として注目されるのは1960年代になってから。1995年オランダ・ウィングダム・グループが巨額の投資を行い、産地は劇的に拡大。オーストラリア最大級のワイン会社から、オルタナティブ品種でスタイリッシュなワインをつくるブティック・ワイナリーまで、さまざまな形態でのワイン造りがおこなわれている。

アデレード・ヒルズ Adelaide Hills

アデレードの東に南北に広がるアデレード・ヒルズは1800年代にブドウが植えられたものの、1930年代頃には消滅し、再びワイン産業が生まれるのは1970年代になってから。マウント・ロフティ・レンジにある標高230-650mの丘陵地にひろがり、オーストラリアを代表する冷涼気候の産地の一つ。日照量は十分にあるが夏は涼しく乾燥し、冬から春は雨が多く冷え込む。冷涼だが十分な日照に恵まれ、昼夜の寒暖差が大きい。オーストラリアを代表するソーヴィニヨン・ブラン、ピノ・ノワールの産地で、風味豊かなシャルドネから上質スパークリング・ワインも造られる。冷涼地の特徴を備えたシラズも有名。起伏が多い地形と変化に富む土壌から、多種多様な品種が生産され、冷涼地ならではのエレガントなワインを生み出している。



Code	商品名	年号	種類	希望小売価格
13050	グリュエナー・ヴェルトリーナー	2022	白	¥3,850
13049	フィアーノ	2022	白	¥3,850
13051	サンジョヴェーゼ	2022	赤	¥3,850
12364	テンブラニーリオ	2021	赤	¥3,500

希望小売価格は税別表示。容量は、明記されていないものは750ml。

Recommended Retail Prices do NOT include Consumption Tax. Vol. is 750ml unless otherwise specified.

(2025年7月)

ヴィレッジ・セラーズ株式会社
〒935-0056 富山県氷見市上田上野 6-5

Village Cellars
www.village-cellars.co.jp

E-mail: wine@village-cellars.co.jp
TEL: 0766-72-8680 FAX: 0766-72-8681



フィアーノ Fiano

畑：ラングホーン・クリーク
ラベル：ピシヨップ（司祭）

洋梨、オレンジの花、蜂蜜や香ばしいヘーゼルナッツの香りで、パパイヤや柑橘、スパイスの風味に一部樽発酵による厚み加わる。豊かな酸とミネラルが明るく爽やかな余韻は魚介類の料理に最適。40%は自然酵母で樽発酵させる。

フィアーノは蜂蜜などの香りが印象的な南イタリア土着の白品種で、主にカンパーニャ州アヴェッリーノを囲む丘陵地帯で栽培。古代ローマのワインであるアピアーヌム（ラテン語の“ミツバチ”）の元となった品種であると考えられている。ラングホーン・クリークの涼しい海洋性気候と良い相性。



グリューナー・ヴェルトリーナー Grüner Veltliner

畑：アデレード・ヒルズ
ラベル：ルーク（塔）、またはオーストリアの城。

グレープフルーツ、柑橘の果皮、柑橘やネクタリンのアロマにスパイシーなニュアンス。青りんごの風味をスパイスが縁取る。ミネラリーな酸と微かな酸化熟成による緻密な質感が収斂性のある長い余韻。和食を含む幅広い料理を引き立てる。

オーストリアを代表する白品種だが、アデレード・ヒルズにも良く適応。アデレード・ヒルズでは30軒以上の生産者が「グリューナー・グループ」を結成、情報交換や共同販促をしている。3haの畑から造られるザ・ポーン・グリューナーは2013年が初ヴィンテージ。



サンジョヴェーゼ Sangiovese

畑：アデレード・ヒルズ
ラベル：ナイト（騎士）

チェリーやクランベリー、なめし皮やミネラルの複雑な香り。赤い果実の層にタンニンが軽やかに溶け込み重層的な味わい。ドライで複雑さのある長い余韻。小型開口樽で自然発酵（小粒のクローンは全房発酵）し、アメリカンオークの旧樽で9ヶ月間熟成。



テンプラニーリョ Tempranillo

畑：アデレード・ヒルズ
ラベル：ポーン（歩兵）

いちご、ラズベリーに甘美な森の果実、ミント、タバコのアロマ。鮮やかな赤い果実の風味をハーブやオリーブ、スパイスが複雑に彩り、熟成が進むにつれて土っぽいニュアンスが重なる。フレンチオーク旧樽とハンガリアン・オーク新樽で9ヶ月間熟成。

品種：テンプラニーリョ93%、モンテプルチアーノ7%(2021年)。

*年号や価格は予告なく変更することがございます。
*各ワインの詳しい資料は弊社ホームページ上の生産者ワイン詳細をご参照下さい。